

# なぜ、今、生産調整？

世界の食料需給が緊迫し、世界の米価が高騰しているのに・・・



写真：六条大麦

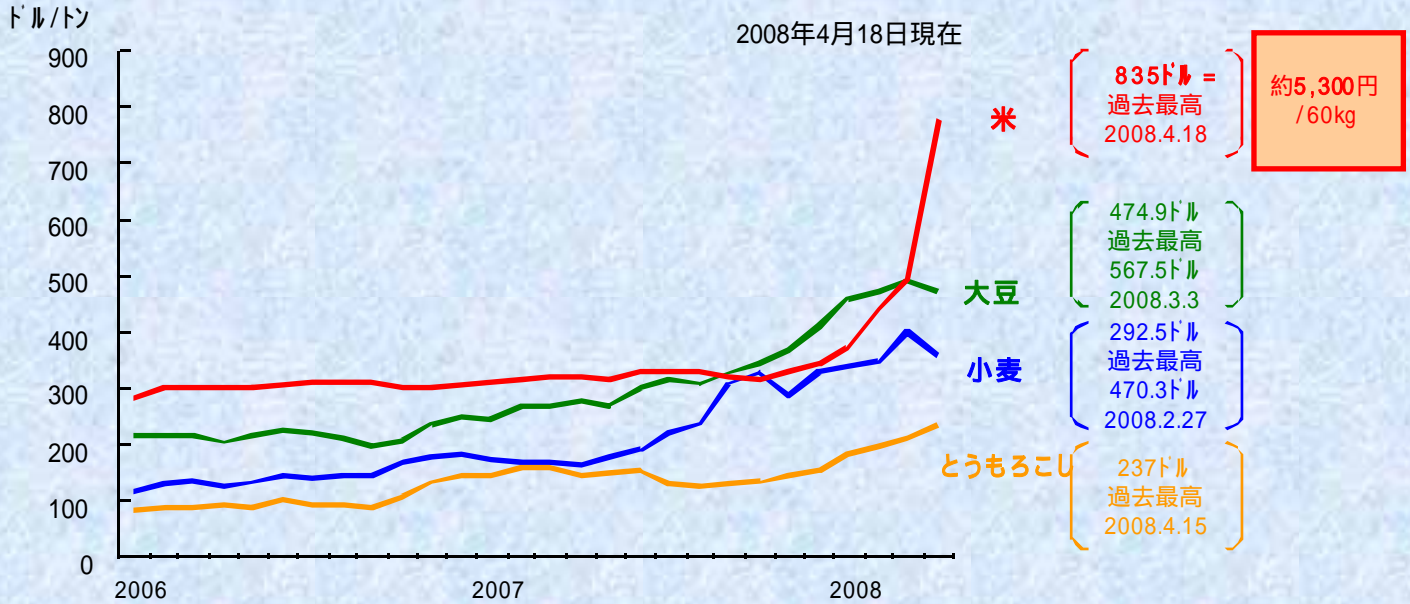
平成20年5月

農林水産省  
北陸農政局

# 1 世界の農産物価格の動向

世界の穀物需給は、中国・インド等の経済発展による食料需要の拡大、バイオ燃料原料としての需要増大等により逼迫しており、米も国際価格は上昇しています。

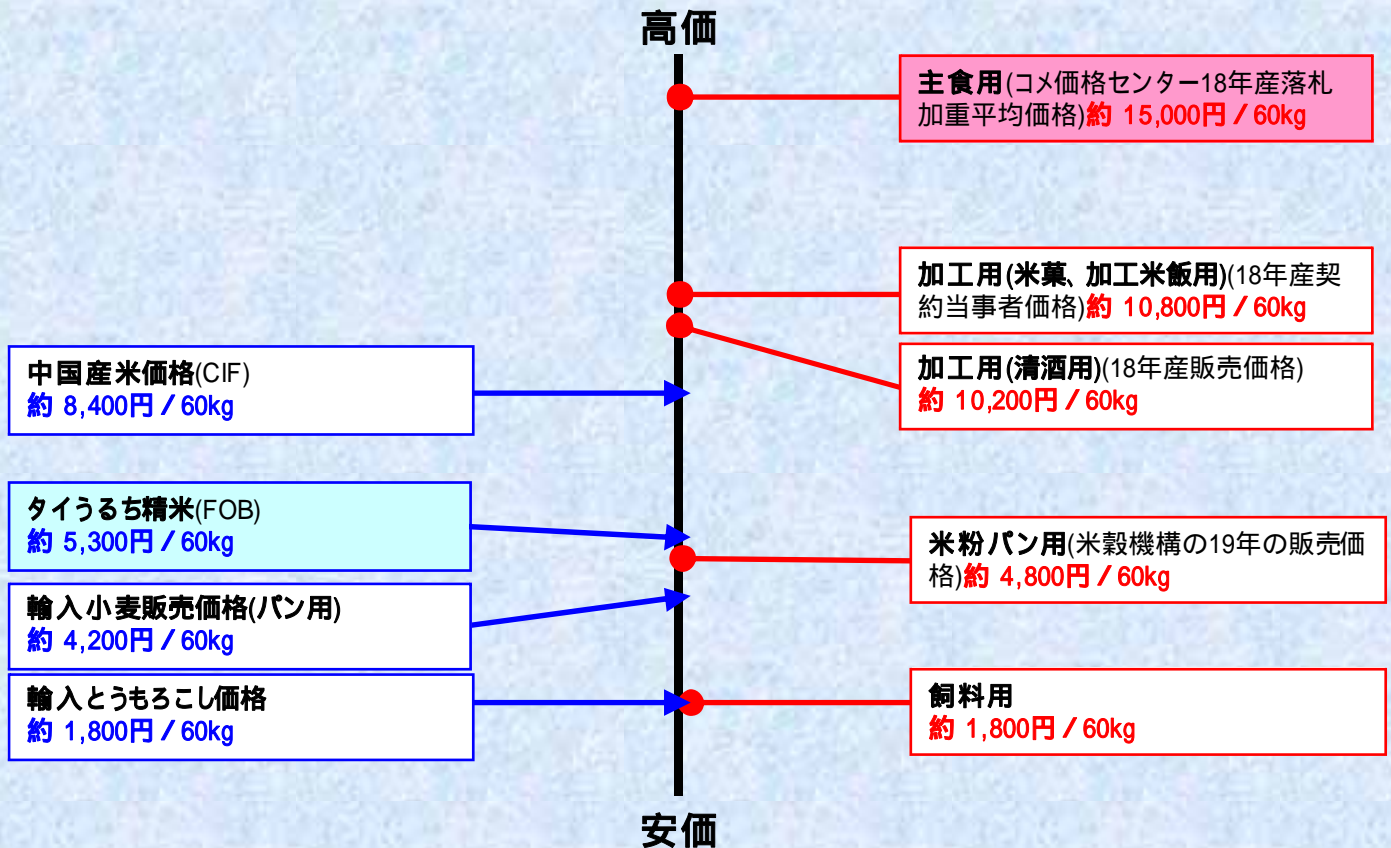
## 主要農産物の国際価格の動向



注1:小麦、とうもろこし、大豆は各月ともシカゴ商品取引所の第1金曜日の期近価格

注2:米は、タイ国貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米、破米混入率10%未満のFOB価格

## 米等の用途別価格

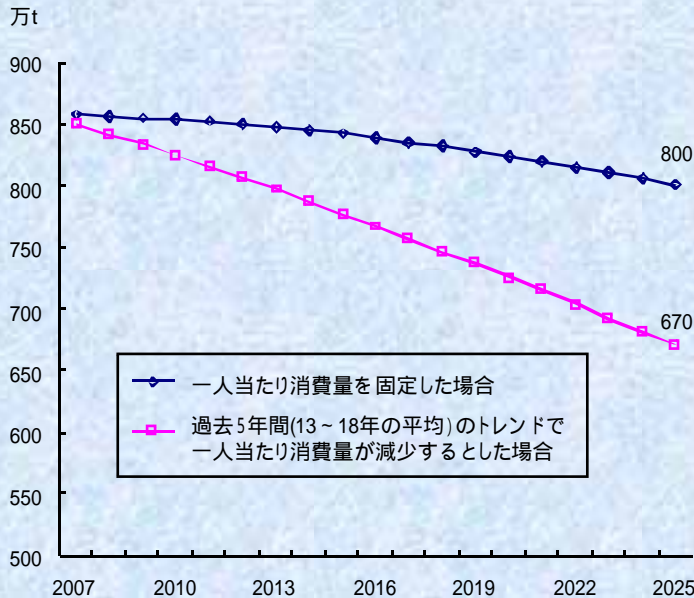


## 2 米の需要をめぐる情勢

国内においては、食生活の変化等により米の消費量が年々減少し、国内すべての水田で作付を行った場合、需要を上回ることから、需要に見合った生産となるよう昭和46年より生産調整を取り組んでいます。

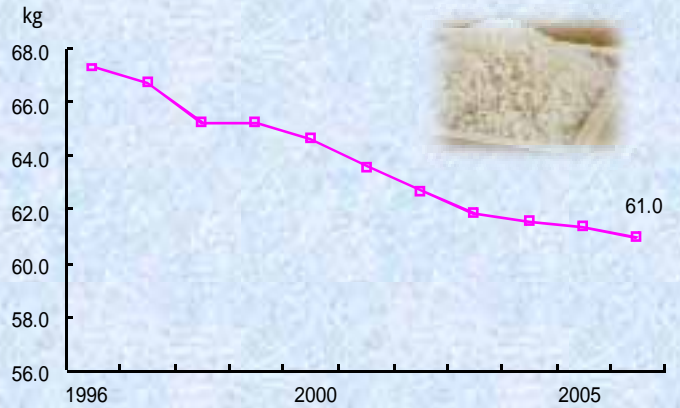
### 国内米飯用需要の将来傾向

主食用米消費量の推移（試算）



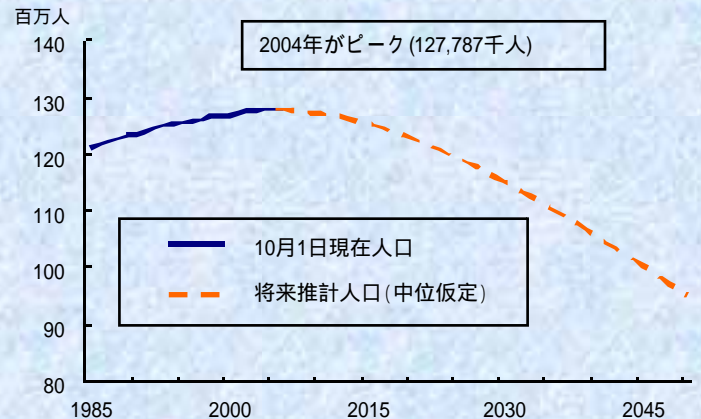
注：総需要量は、1人当たり消費量(推計)×人口(予測)×1.1(玄米換算)で推計

(参考) 一人当たり米消費量の推移



資料：農林水産省「食料需給表」

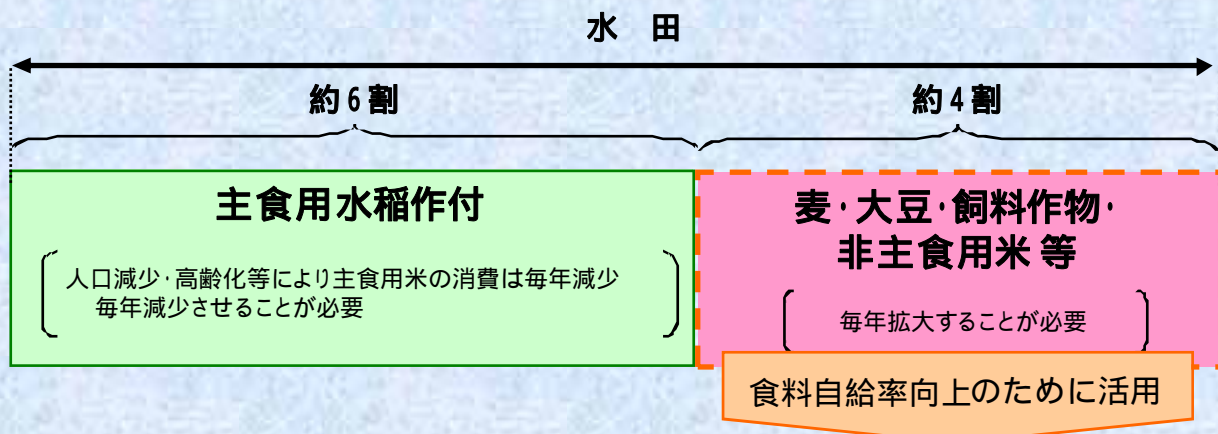
(参考) 人口の推移と将来予測



資料：総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態統計」、  
法務省「出入国管理等計」、  
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口(平成18年12月推計)」

### 主食用水稲の作付必要面積

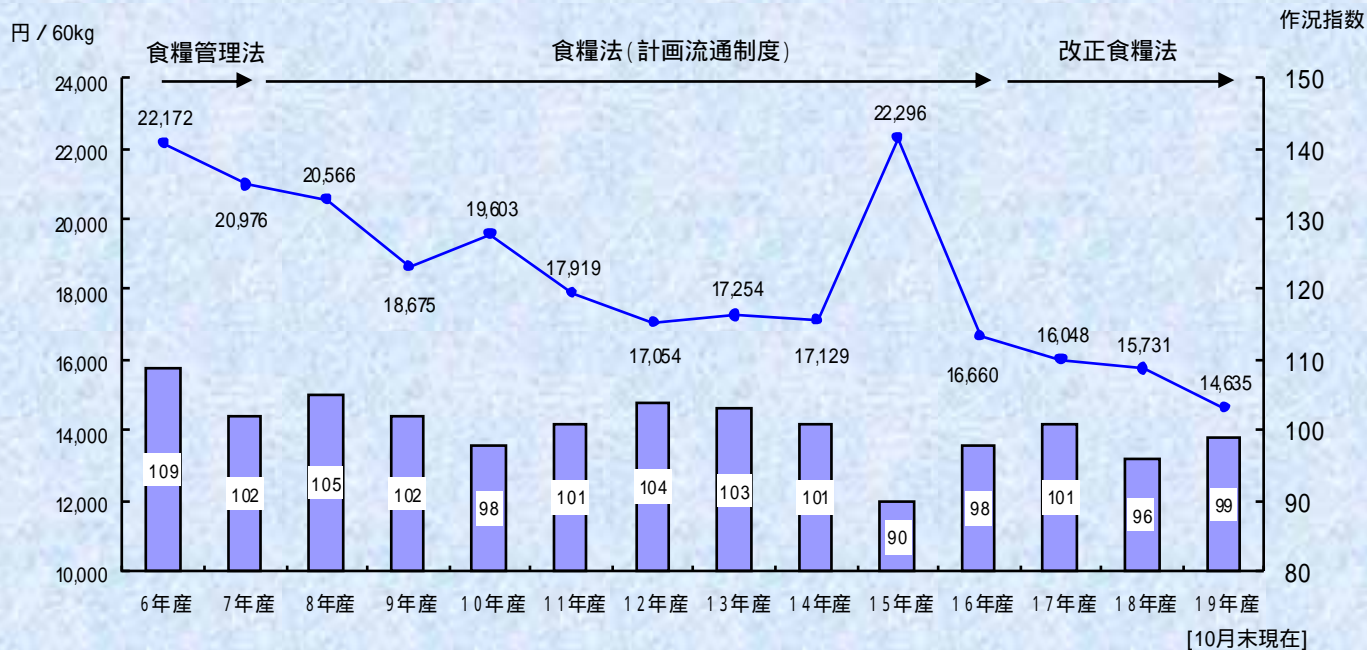
主食用米については、消費の減少に伴い、全水田面積の約6割の作付けで賄える現状です。このため、残りの約4割の水田においては、自給率の低い麦、大豆、飼料作物等の生産を促進し、食料自給率向上のために活用することが必要です。



### 3 価格をめぐる情勢

平成19年産米については、作況指数が99であったものの、生産調整の実効性が確保されなかったこと等の要因により、価格が大幅に下落する異常事態となり、稲作農家の経営に大きな影響を及ぼす結果となりました。

#### 全産地銘柄の年産別平均価格の推移 (コメ価格センター)



#### 生産調整の必要性

もし、生産調整が適切に行われないと・・・

米の価格がさらに大幅に下落

農家の経営に大きな悪影響

農業経営が成り立たなくなり、耕作放棄地等が増加

国内の農業生産基盤がさらにぜい弱化（自給率のさらなる低下）

もちろん、対策は生産調整だけではありません

#### 米の消費拡大を推進

- ・主食用米、米粉
- ・新規需要米  
(飼料用米、バイオエタノール等)

#### 望ましい食生活の普及・啓発の推進

- ・「食事バランスガイド」の活用
- ・ご飯などの主食はしっかり、油分は控えめに



#### お問い合わせ先

北陸農政局食糧部計画課

所在地：金沢市野町3丁目1番23号

電話：076-241-3151(代表)

FAX：076-244-2465